

『前に置かれている…』(へブル人への手紙 12章1-6節) 2022.1.2.

<はじめに> ツアーに申し込むと旅程表が届き、旅の概略がつかめます。年頭は、今年そしてこれからを展望する機会です。どんなことが予想されるでしょうか。予想外の展開もあり得ます。聖書は私たちの人生の旅程表を提示しています。

I 駆け抜けよう(1)

①置かれている競争？

他人と優劣順位を競うのではなく、自分に与えられたコース・持ち場・馳場(文語訳)です。そのコースを私たちの前に置かれたのは神様で、一人ひとりに独特なルートなので、他人と比べようがありません。動機と意図を示す励ましのことば(5-6)も添えられています。

②悩まされる課題

前進を阻む材料は多種多様です。あれこれと心配して、思い煩いと重荷を抱え込んではいないでしょうか。それらを手放し(マタイ 6:31-34)委ねて(I ペテロ 5:6-7)、身軽になりましょう。また疲労から来る倦怠も襲い掛かります。主のことばによって断ち切りましょう。

③忍耐をもって

私たちの人生は、新年を迎えて振出しに戻ったのではなく、次の局面に入ったのです。長い旅路ですから、調子のよい時ばかりではありません。それでも投げ出さず、あきらめずに駆け抜けるには、克己忍耐が必要です。それをどうして保てるでしょうか。

II 注目しよう(1-3)

①多くの証人たち(1)

私たちは前人未到に挑んでいるわけではありません。雲のように取り巻く多くの経験者・証人が 11 章に列挙されています。彼らは「約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です」(10:35-39)と声援を送っています。先達がいることは励ましに繋がります。

②信仰の創始者(Author)、完成者(Perfector)(2)

先達の中でもひとときわ輝くのがイエスです。この方は父なる神の救いの御計画と約束に従われ、最後まで全うされた方です。また私たちを造り、その内に信仰を生み出し、育み、完成まで導くと約束されています。イエスご自身もその道程を駆け抜けられた御方です。

③耐え忍ばれた方(2-3)

イエスは神の御子だから楽勝だったのでしょうか。イエスの辿られた道は謙遜と苦難とに満ちています。神の御計画に従い、人となって私たちの間に住まれ、神の御子なら味わう必要のない辱めと苦しみを受けつつ忍耐された姿は、悩み苦しむ者の励ましです。

III 突き抜ける喜び

①罪人たちの反抗(2-3)

人を罪から救い、神の子どもとして迎える御計画の実現を阻む者の反抗はすさまじく、突き進もうとする御子イエスを十字架に追いやり、血を流させました。加担した罪人たちにとってそれは、実は自分たち自身に対する反抗でした。

②走路の先にある喜び(2)

しかし、神はイエスを甦らせ、彼は神の御座の右に就かれました。神からの榮譽、信任と全権委任の証しです。この光栄と喜びを待望して、イエスは前に置かれたコースを完走されました。イエスの姿は自分の馳場を駆け抜ける私たちの希望であり、喜びです。

③イエスから目を離さないで(2)

私たちの辿るこれまでの道筋に、ともに歩まれたイエスの足あとを見出しているのでしょうか(13:5)。そのイエスがこれからの歩みにも共に歩まれます。行く道筋にはイエスの足跡が必ず見出せます。その足跡をたどれば、必ず完走できます。

<おわりに> 新年を思い巡らし、思い描くものは人それぞれですが、聖書は私たちに共通の一枚の旅程表を提示します。途中には戦いや忍耐を要する場面もあるでしょうが、多くの証人たちが、私たちの主イエスが先駆けています。私たちもそれに続こうではありませんか。(H.M.)